

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4795700014
法人名	社会福祉法人 憲寿会
事業所名	グループホーム ときわ苑
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町当銘370-1 (電話) 098-998-8899
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年7月25日

【情報提供票より】(H20年6月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 19 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(6月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あしとみ胃腸科内科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームときわ苑は、小高い丘に位置し、サトウキビ畑・公園等に囲まれ沖縄の原風景を見ることが出来る。隣接して母体施設の介護老人福祉施設等各種サービス事業所がある。グループホームは、1階建ての新築で玄関は自宅を思わせる格子引き戸である。生活空間はこじんまりしており、壁面には手染めの布や利用者の作品(習字)等で飾られ、明るく家庭的な雰囲気である。職員は母体施設で培った専門性と同法人の理念(ときわ:ときわなる寄り添う心)を念頭に、利用者に接している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、地域福祉課長、介護支援専門員、職員(介護主任)が行い、その他の職員で確認した。今回の評価結果については改善に努め、更なる資質の向上を図りたいと前向きであった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>立ち上げには時間を要したが、平成20年7月9日に1回目を開催した。今後は2ヶ月に1回は開催していく予定である(2回目は9月開催)。構成委員は利用者代表、家族代表、区長や民生委員、行政、社協等幅広い。内容は1年間の事業報告、グループホームの概要説明が主であった。次回からは活発な議論の場になるよう工夫していく。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「意見箱」は玄関先に設置されているが、利用がない。苦情や意見は来所時や電話等で口頭による相談が殆んどである。母体施設との連携で、24時間相談体制がとられている。要望等については、その都度改善している(例えば、車椅子利用者の受診時の病院への送り等)。重要事項説明書にも、苦情相談窓口を明記し、意見を出しやすい環境づくりに努力している</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な散歩を通して、人々との関わりは多い。町の行事への参加や、地域の老人会(月1回)、公民館での行事へ参加している。時々、町や公民館からの依頼で、認知症の出前講座への講師依頼等があるので、積極的に協力している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念は特に定めはなく、母体施設の「ときわ:人間の尊厳・ときわなる寄り添う心」を理念としている。地域密着型サービスが目指す、理念に欠けているが、職員は母体施設の理念を念頭に、寄り添いの支援をしている。	○	これまでの理念を大切にしつつも、「地域で安心した生活がおくれる施設」にふさわしい、地域密着型施設としての言語化できる具体的な理念を早急に作成していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体施設の理念に基づき、職員は日々のケアに取り組んでいる。唱和等による理念の共有はないが、日常的に管理者からの声かけもあり、理念をベースとした「倫理規定」を掲示し、利用者中心の援助がなされている。	○	地域密着型施設にふさわしい新たな理念が、職員間に共有され、実践につながり、更なるサービスの向上につながることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な散歩を通して、人々との関わりは多い。町の行事への参加や、地域の老人会(月1回)、公民館での行事へ参加している。時々、町や公民館からの依頼で、認知症の出前講座への講師依頼等があるので、積極的に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の調査は、地域福祉課長、介護支援専門員、介護主任が行い、職員で確認した。評価のプロセスでヒヤリハットや記録を残すことの大切さについて気づきがあった。	○	今回の評価結果をもとに、職員全体で話し合い、改善点などについては積極的に取り組んで頂くことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	立ち上げには時間を要したが、平成20年7月に1回目を開催し後は2ヶ月に1回は開催していく予定である。委員は利用者代表、家族代表、区長や民生委員等幅広い構成である。初めてということもあり、内容は1年間の事業報告や利用者の生活状況等に止まっている。次回からは施設運営等についても協議する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在は、運営推進会議への行政主管課の参加がある程度である。今後は地域包括支援センター等の関わりをとおして、積極的に連携をとりたい。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診時や来訪時に直接口頭で伝えることが多い。定期的な報告の機会には設けていないが、家族の状況に合わせて報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、記入しやすいよう項目も(受診、体調、食事、嗜好等)入れて工夫しているが、利用はない。そのため、意見や要望等を聞くために近々家族を対象にアンケート調査を予定している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、正職員の交代はない。その分、マンネリ化がないように日頃から職員は意識して業務に当たっている。非常勤職員の異動がある場合でも、母体施設との連携で利用者と日常的にかかわり、馴染める関係づくりに努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は施設の財産であるという認識に立ち、積極的に研修会等への参加の機会を作っている。毎月の内部研修や、外部研修への積極的に派遣する等、サービスの質の向上を図る機会を作っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し、会議への参加や他のグループホームの相互訪問を通してネットワークを作り、日常的なことの情報交換をしている。それらの交流から学びや気づきも多く、サービスの資質の向上に役立っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方や本人への見学体験を薦め、納得の上で入所につながるよう工夫している。利用(入所)に際しては本人の意志を最優先している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	過去の経験(戦争体験)や本人の特技・趣味等(書道や料理等)を活かした支援を心がけ、常に人生の先輩方から「学ぶ」姿勢を大切にしている。声かけや促し、レクレーションや食事時間等と一緒に過ごせるよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長期の飲酒・喫煙に悩む利用者が半年で治癒に向かう程、利用者のニーズやペースに合わせた支援がなされている。過去の経験談を活かした「回顧録」づくりや、書道歴のある利用者を中心にして、書道の時間を作るなど工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、本人や家族、介護職員からの情報収集して作成している。聴覚に障害のある方への補聴器を利用して意見を聞く等工夫しているが、全体的に評価や支援した内容の記載が不十分で、支援の根拠となる内容(プラン)に欠けている。	○	評価やアセスメントの結果を記入し、根拠(ケアプラン)に基づく支援(現在のサービス内容とプランの整合性)に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	緊急なケースについては、見直ししているが、症状の安定している利用者についてはなされていなく、全体的に評価や見直しが不十分である。緊急の場合でも口頭による見直しが主で、記録も不十分であり、個別ファイルへの記載もない。5月に見直したが、見直したプランの保存はされていない。	○	介護計画とサービス内容の整合性を図るためにも、早急に、利用者個々人の評価や再アセスメントに基づいた見直しを行い、現状にあった介護計画の作成を期待したい。また、支援した内容の記録の習慣化についてもミーティング等で話しあい、情報の共有化を図る環境づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設との連携で、24時間の相談体制や行事への参加、利用者の不安や生きがい活動への支援、社会と関わる機会を作るなど積極的に行っている。必要な場合(車椅子利用者)は、車両や職員の協力で病院への介助・送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれの主治医を持っている。日常的な援助等で症状が気になる場合や処方薬の管理など、主治医との連携も取り、アドバイスを受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的なケースはないが、日常の家族との会話の中で話が出る場合、母体施設利用の可能性を伝えるが、家族は病院での終末期を希望する方が多いのが現状である。施設としては利用希望があれば対応は前向きである。近々、協力医療機関や主治医との話し合いを持つ計画をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前は「さん」つけて呼び、常に施設の理念である「利用者の尊厳」を意識している。利用者の過去の経歴や誇りを支持し、子どもの自慢話等が出る場合は傾聴し、支持している。個人情報の多い個人ファイル等の管理は「鍵つき保管庫」に整理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徘徊(散歩)好きな利用者が出かける場合は付き添い、自宅まで行き、好きであった盆栽等を見てもらって安心させたり、難聴の方へは補聴器の利用を薦め、仲間の会話に入れるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設で調理し、ホームで配膳している。日々のメニューも掲示され、職員も一緒に食事を楽しんでいる。男性利用者がお絞りや箸並べ、盛り付けや配膳等を行い和やかな雰囲気、嚙下困難の利用者には刻み食・介助等に対応し、安心して食事ができる環境である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前中を基本としているが、その日の状況や利用者の都合(受診や散髪等)に合わせて対応している。シャワー浴が主である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	可能な方は、食事時の配膳や洗濯物たたみ、日めくりのカレンダーめくり、母体施設からの食事受け取り、犬の餌やり、花木の水やり、犬小屋清掃、お茶のパック詰めなど役割は多い。その他の利用者はテレビ観賞、室内散歩等で過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺環境がよく、日常的に施設周辺の散歩がある。おやつや買い物、ドライブ、ごみ捨て等、外出の機会も多く、時には、自宅への立ち寄りなどもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けない施設である。一度無断外出があったが、近隣の方の連絡で保護した経緯がある。出入り口や玄関への風鈴を取り付け、職員による目配り・気配り等で安全確保に心がけている。居室もオープンである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難体制やマニュアルは整備されており、職員は母体施設での避難訓練等(2ヶ月に1回)もなされているが、当該施設での訓練の実践はない。	○	緊急性を勘案し、避難訓練は最優先で取り組んでいただきたい。訓練の実施を通して、地域住民の協力体制づくりへ発展することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士による食事メニュー、栄養のバランスや、大きさや柔らかさ、形態も工夫されている。摂取量の記録もなされている。水分摂取の記録はなされていないものの、自由に摂取できる環境である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、置物を始め、壁面飾り(創作琉歌・藍染のれん・風鈴・生け花・日めくりカレンダー、行事スナップ等)も工夫されている。居間は採光も十分で、畳間やゆったりタイプのソファ、水槽、対面式調理場など、家庭的な雰囲気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的雰囲気づくりが工夫されているものの、居室については施設が用意したベット、衣装棚、椅子が置かれ、壁面は白塗りのままの状態である。個人が使い慣れた馴染みの物は、小物程度である。	○	今後、私物(馴染みの品等)の持ち込みや壁面の活用の仕方について、家族と充分に話し合い、より家庭的な環境づくりを期待したい。